

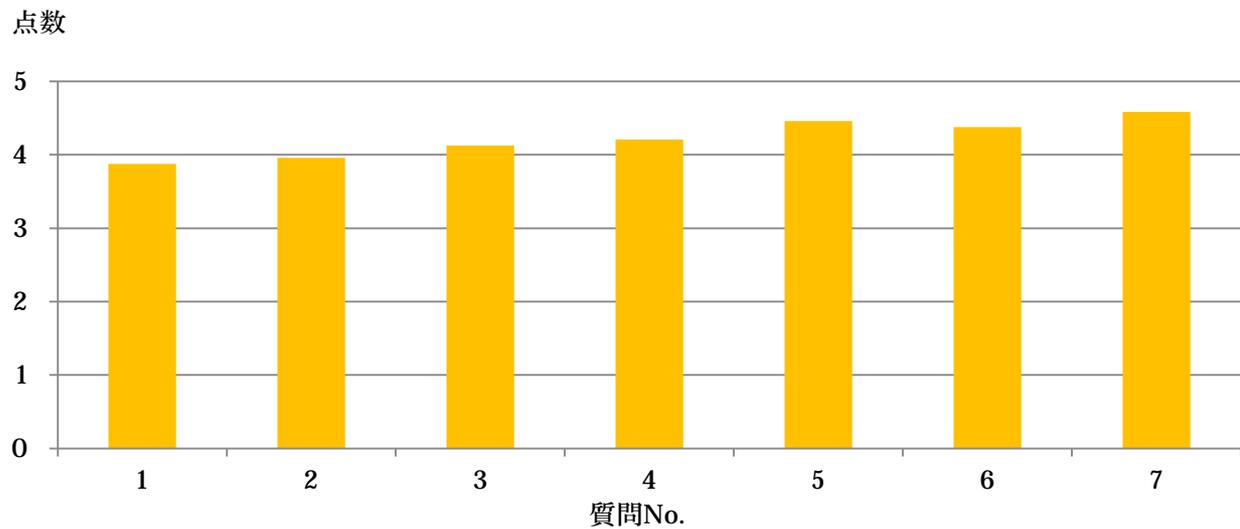
プログラムによる日本人学生の 育成状況について

○京都大学、関西大学

気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム

日本人学生の育成状況について

No.	質問		平均値
1	自分の進路に影響があった	influenced my future course.	3.9
2	就職活動に役立った	was useful for my job hunting.	4.0
3	英語で話すことが上達した	improved my English speaking ability.	4.1
4	英語で記述することが上達した	improved my English writing ability.	4.2
5	災害に対する考え方の多様性を学んだ	taught me diversified attitudes toward disaster.	4.5
6	タイに関する理解が深まった	provided me with a better understanding of Thailand.	4.4
7	国際的な友人のネットワークの形成につながった	helped me form an international network of friends.	4.6



東京外国語大学

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・
カンボジア知日人材養成プログラム

3. 日本人学生の育成状況について

(1) 交換留学（派遣）のアンケート結果

語学力(ビルマ語、ラオス語、カンボジア語)や異文化理解の向上、現地で働く意欲の高まりや、知識の深長を留学の成果としている学生が多かった。

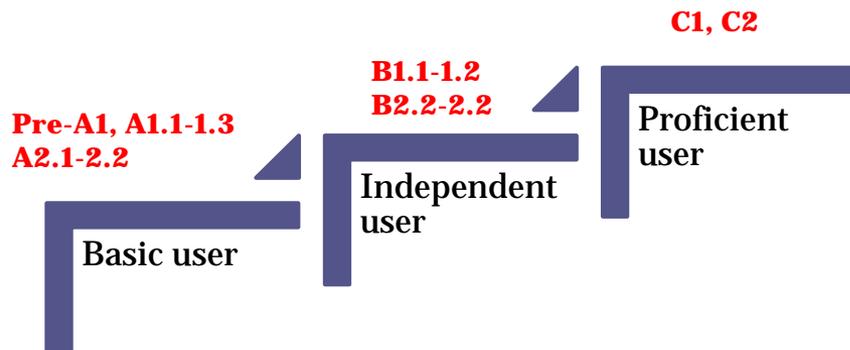
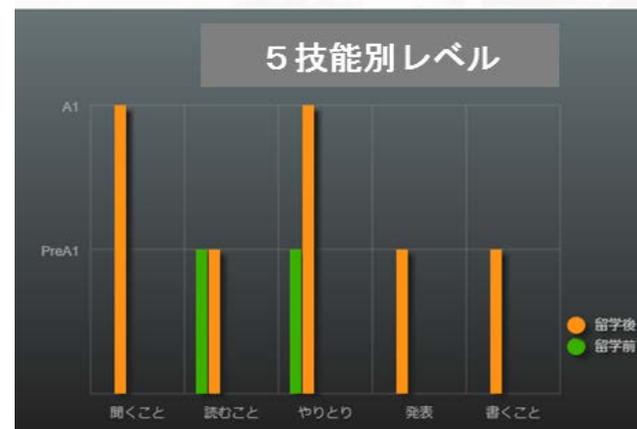
(2) 言語運用能力

短期派遣では、派遣前にヨーロッパ言語共通参照枠CEFRを活用した自己診断を実施し、帰国後にも再度同診断を実施しており、帰国後の言語到達度評価は全員、概ね語学力（とくに聴解、会話力）が上がったとしている。

	リスニング	リーディング	やり取り	発表	ライティング
ラオス	0→A1	PreA1→A1	PreA1→A1	PreA1→PreA1	PreA1→A1
カンボジア	PreA1→A2	A2→A2	A1→B1	A1→A2	B1→A2
ミャンマー	0→A1	PreA1→PreA1	0→A1	0→A1	0→PreA1

CEFRを活用した自己診断：欧州評議会（Council of Europe）により2001年に公開された、Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略。実際に聞く、話す、読む、書くという語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格として、広く導入されている。本診断は、ABC段階をさらに2分割し、6段階のレベルとしたCEFR-Jに拠る。

平成28年度短期留学における留学前・留学後CEFR診断の個人レベル評価（例）



3. 日本人学生の育成状況について

(3) 日本語教育への支援

- ・長期派遣において、派遣前に日本語教育についての基礎知識を身につけ、派遣先大学において日本語学ぶ学生に日本語教育のサポートを行っている。
- ・大学院レベルの派遣では、日本語教育の補助教員として、ヤンゴン大学、王立プノンペン大学においてインターンシップを行っている。



ヤンゴン大学日本語教室（本学学生による指導）

(4) 学習などの意欲

- ・短期派遣、短期受入れなど、ミャンマーでの経験やヤンゴン大学学生との交流機会などの体験の蓄積により、本学Web掲載の「日本語で読む東南アジア」（メディア翻訳）への参加意欲が高まり、翻訳能力や情報収集の正確さを身に着ける努力を積極的に行っている。
- ・短期派遣-受け入れ、長期交換留学という継続的な交流の深まりに伴い、ラオス関係に就職したいという意欲がより高まり、インターンシップでラオスに長期滞在を希望する学生が増えた。

活動期間等	研修先等	内容
10ヶ月間	ラオス ビエンチャン中等教育学校	日本語教師のアシスタントとして授業の手伝いや日本文化を伝える
1H/1日 (週2日)	ラオス国立大学日本語学科	ラオス国立大学日本語学科1年生の宿題の添削
週1回	NGO メコンウォッチ	ラオスクム族の民話の日本語翻訳、メコン川流域の人々の暮らしを紹介したビデオの日本語訳、日本語字幕作成

(4) 学習などの意欲

・スピーチコンテストの入賞者が増加

在日カンボジア大使館主催のスピーチコンテストにおいて、入賞者が増加した。

平成28年度：本学学生入賞1名（3位）

＜1, 2位は社会人＞

平成29年度：本学学生入賞2名（1位、2位）

＜3位は社会人＞



4. 日本人学生の本プログラムへの応募状況

(1) 短期派遣

- ・ミャンマー、ラオスについては、それぞれの言語を地域言語Aとして学ぶ1年生は全員参加する。(ミャンマー→夏学期、ラオス→冬学期)
- ・カンボジアについては、2年生が全員参加する。(冬学期)

(2) 交換留学（派遣）

- ・2017年度派遣の応募状況

大学名	募集定員	応募数	派遣数	期間
ヤンゴン大学	3	5	3	約10ヶ月
ラオス国立大学	3	7	3	約10ヶ月
王立プノンペン大学	2	6	2	約10ヶ月

東京藝術大学

日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション

～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

日本人学生の育成状況について

■日本人学生のプログラム参加状況

- 平成28年度：延べ22名（実績 | 目標18名）
- 平成29年度：延べ56名（見込 | 目標36名）

■向上が見られる能力

- 語学力：英語および現地語
- 積極性：プロジェクトの企画や運営への学生の参加、国際的な活動の志向
- 現場力：環境やルールの異なる各国／地域におけるプロジェクトの完遂
- 専門性：相手国の伝統技法やその背景にある文化状況への理解の深まり

■その他の変化（良い影響）

- 日本の伝統技法や文化状況に対する意識の高まり
- 連携大学の学生や教員とのネットワークの構築
- ホスピタリティ

■課題

- 安全管理（スマートフォンの盗難、不用意に動物に近づく 等）
- 健康管理（お腹を壊す、気温差で体調を崩す 等）
- 今後の参加学生数の維持や中長期的留学の拡充に向けた財政基盤の確保

新潟大学

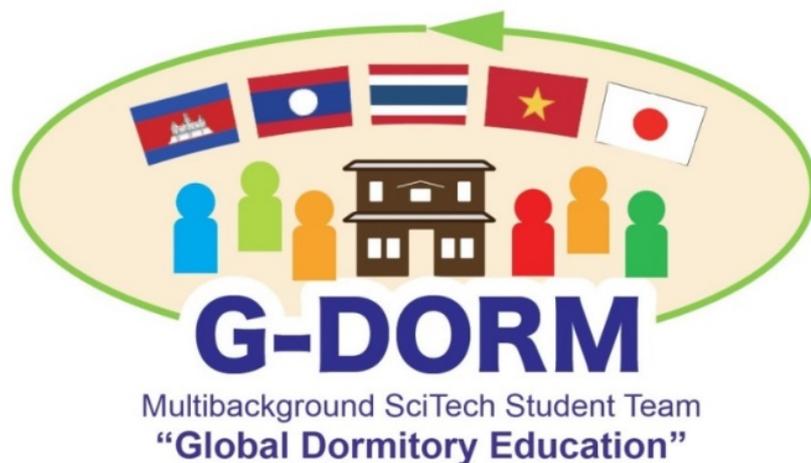
メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成



メコン諸国と連携した 地域協働・ドミトリー型融合教育による 理工系人材育成

日本人学生の育成状況について

採択大学連絡会の事前提出資料



王立ポンペン大学



ラオス国立大学



チュラロンコン大学

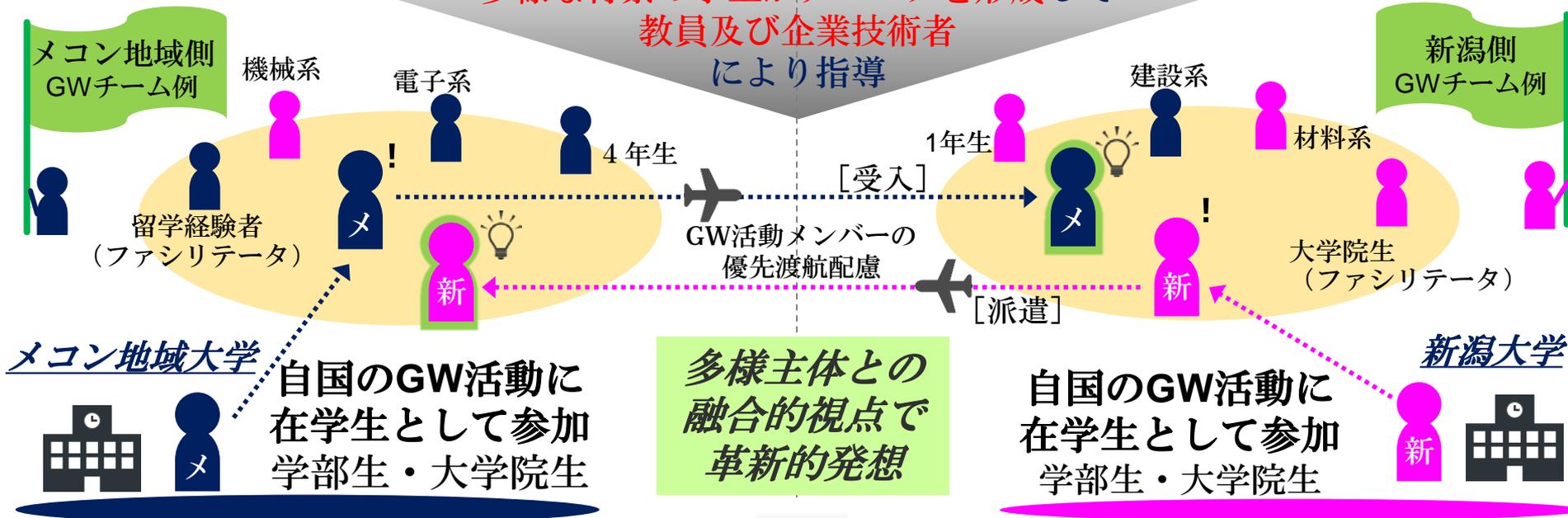


ハノイ工科大学



地域協働・ドミトリー型融合教育の特徴

「学生寮(ドミトリー)」に先輩・後輩が集うように
多様な背景の学生がグループを形成して
教員及び企業技術者
により指導



新潟地域関連企業(メコン諸国の産業課題解決に有用知見, しかしグローバル人材不足)と協働したグループワーク(GW)によるインターンシップ

国際テクノロジーGWインターンシップ
(現場技術研修型)
企業の実態と技術に関する知識を体験

いずれかを必修

国際マーケットGWインターンシップ
(現地市場調査研修型)
企業が目指す市場・社会の特性・動向を調査



H28-H29年度の新潟大学からメコン地域の4大学への派遣内訳

Outbound student number	Type	Univ.	FY2016	FY2017
			Short-term (10 days) Undergraduate	
		NUOL	0	0
		CU	2:trial	8を10に増員
		HUST	0	0
		Total	2	8を10に増員(応募13)
Medium-term (2 months) Undergraduate		RUPP	0	1
		NUOL	0	1
		CU	0	1
		HUST	0	1
		Total	0	4(応募7)
Medium-term (2 months) Graduate		RUPP	0	0
		NUOL	0	0
		CU	0	1
		HUST	0	1
		Total	0	実施中：2(応募3)
Long-term (6-12 months) Graduate		RUPP	0	0
		NUOL	0	0
		CU	0	1
		HUST	0	0
		Total	0	実施中：1(応募1)
Total			2	15を17に増員(応募24)

Niigata
↓
Mekong



2017年度日本人学部生の中期(2ヶ月)派遣での必修インターンシップ科目

国名・大学名 (留学期間:2ヵ月)	派遣総数4人 (応募7)	国際GWインターンシップ(約1ヶ月)	
		取組み課題名と受入企業名	派遣大学からの参加数
カンボジア・ 王立ポンペン大 (9/30-11/28)	4年生 1人	「トラック過積載問題の調査・分析・改善案」 田中衡機工業所／田中衡機ベトナム(計量器の設計・製作・販売等), ※ 現地企業がない場合のマーケット調査型インターンシップ	2人
ラオス・ ラオス国立大 (9/30-11/28)	3年生 1人	「 現地社員募集方法の提案 」, ツノダ／ラオツール(ペンチ・ニッパ等の工具の企画・開発・設計・製造・販売)	2人
タイ・ チュラロンコン大 (9/30-11/28)	4年生 1人	「 日本人駐在員と現地スタッフのチームワークに関する考察 」, サンアロー／サンアローシティ(樹脂・ゴム等の複合素材の成形・加工・接着による各種機器・部品等の製造)	0人 (新潟大生との英語によるスカイプGW中間討論会)
ベトナム・ ハノイ工科大 (8/29-10/28)	4年生 1人	「 品質向上と仕事環境の関係(改善提案) 」 日本精機／ベトナム日本精機(クルマ・オートバイメータ等の表示ディスプレイの製造)	2人



企業による中期派遣・日本人学部生に対する
国際GWインターンシップの5段階評価(4名の平均値)

1	御社の理論や技術が理解できていましたか。	3.3
2	現状を踏まえ目的や課題を明確にすることができていましたか。	3.8
3	課題解決に向けたプロセスを明らかにし、準備することができていましたか。	3.5
4	既存の発想にとらわれず、課題に対して、新しい解決方法を考えることができていましたか。	3.3
5	御社や地域産業の強みや弱みについて理解できていましたか。	3.0
6	企業活動の国際展開のための可能性や課題について明らかにできていましたか。	3.3
7	学際的なアプローチ(複数の分野の知識や技術を統合する視点)をもって、課題解決策について検討することができていましたか。	3.7
8	批判的に推論する能力を発揮できていましたか。	3.0
9	数量的分析能力を発揮できていましたか。	3.5
10	わかりやすいプレゼンテーションを行うことができていましたか。	3.3
11	目的の作業のために、他者に働きかけることができていましたか。	3.8
12	目標達成のため、他者と協力することができていましたか。	3.8
13	積極的に物事に取り組むことができていましたか。	4
14	自身の業務の目的を定め、これを確実に実行できていましたか。	3.8
15	異文化や異言語に対して前向きな姿勢をもって議論できていましたか。	4
総合評価：全体的に実演された学生の能力を評価してください。		4.3

中期派遣・日本人学部生の振り返り自己評価コメント

派遣国	貴方にとって最も重大な変化(the most significant change)は何？
カンボジア	<p><u>柔軟性が身に付いた。</u> (現地学生とのグループワーク(GW)では、目的認識の程度の相違により、思うようなGWができなかったが、臨機応変に計画し、なるべくメンバーの考えを取り出すように活動した。)</p>
ラオス	<p><u>文化・考え方の違いを強く感じる</u>ことが多かったが、臨機応変に対応できる力がついた。 (GW活動で、現地学生の低い意欲に悩んだが、視点を変えた参加の促し方や質問の仕方などで、状況改善できた。)</p>
タイ	<p><u>自分の考えを見直そうとする柔軟な姿勢。</u> (自分の普通が本当に普通なのかどうかを見つめ直す姿勢を持ち続けようと思った。異なる環境での良いことを新規に理解・許容することは、自分の個性の広がりになる。)</p>
ベトナム	<p><u>チーム内での目標・問題意識・価値観のずれに気付き、それに対応する力がついた。</u> (ディスカッションでは互いの立場・考え方・価値観の相違の理解が重要で、その認識をとおして、共有可能な目的・課題を感じられる。)</p>

JASSO海外留学支援制度の留学前・後の報告書データ

5段階評価で留学後に4.0以上(4人の平均値)の項目

課題に向けた**解決プロセス**を考え、**計画的に実行**することができる(向上:3.0⇒4.0)

自分の意見ややり方に固執せず、**相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応**できる(向上:3.8⇒4.3)

不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと**積極的に発信**することができる(向上:3.3⇒4.3)

自分とは**異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解**し、受入れることができる(維持:4.5⇒4.5)

国内・海外を含めて、**外国人との交流**がある(大きく向上:3.0⇒4.5)

交流継続はプログラム認知度向上に寄与

語学の勉強へのモチベーションがある(維持:4.5⇒4.5)

留学先の社会・習慣・文化に関する知識がある(大きく向上:2.3⇒4.0)

受入れ留学生のケアのサポートに有用

社会での**男女共同参画(男女平等)**の重要性を認識している(維持:4.0⇒4.0)

留学後の学業成績についての自由記載内容

語学力及び討論力の向上, 異分野の講義受講による**知識の広がり**, 留学後のTOEICスコアは成績待ちまたは受験予定

留学後の国際シンポジウムでの成果発表で発信力強化も図る

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム

日本人学生の育成状況について

プログラム参加を通して日本人学生にどのような変化が表れたか

□ 受入研修：

- 課外活動も含め、留学生との交流を喜ぶ・楽しむ学生が多い。
- 海外研修に強い関心を持つ良い機会。

□ 海外研修：

- 英語力やコミュニケーション力の不足を訴える学生が多い。
- 海外学生の積極性やリーダーシップに感嘆する声も多い。
- 日本の常識を覆される経験から、海外へさらなる興味。

□ 学内の関連講義等：

- 英語の補足講義（外部試験対策）等に参加する学生が増加。
- 英語によるディスカッションに参加する学生が増加。
- 長期の留学希望者や同説明会への参加者が増加。

● 英語力： 会話力の改善を目指す学生が増えている。

● 積極性： 容易な受入プログラムへの参加から、積極性が強まる。

● リーダーシップ等：

単純には評価できないが、意識が高まっていることは実感。

日本人学生の育成状況について

日本人学生の本プログラムへの応募状況等について

- 全体的に、日本人学生の応募状況は拡大傾向にある。
- 多くの派遣プログラムはパイロット版も含めると数年前から実施しており、定着の兆しがある（先輩から後輩への情報等）。
- 本事業に採択されたことで支援が充実させることができ、応募を迷っている学生の金銭的な不安が解消された。
- 多くの場合に受入プログラムと派遣プログラムをセットとしており、受入後に派遣に参加を希望する学生が多い。
- 安全・危機管理オリエンテーション等、大学として取り組んでいる支援策が学生の参加意識を後押ししている。
- 本事業で開講している講義（英語でのディスカッションや日本企業の海外展開等）によって、学生の興味を促進している。

○広島大学、広島経済大学

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献
する研究力と社会起業力の融合人財育成



日本人学生の育成状況について

グローバル・コンピテンシー評価の視点から見た状況
(帰国派遣学生の回答)

養成する人材のコンピテンシー

- **研究力**：メガデータを分析し、原因を究明し、課題を明確にする力
- **社会企業力**：発見した課題の原因を十分理解した上で、様々な視点から創造的で具体的な新規事業・政策を立ち上げ、自ら行動に移す力

SDGs アイディア発掘型学生セミナー

- 日本人学生と留学生の8時間にわたる国際合同セミナー
- 広島大学及び海外協定大学で開催
- ミュンスター大学（ドイツ）が開発した独自の手法を応用



- 第1回PEACE-SDGsアイデア発掘型セミナーの様子
2017年3月8日（月）撮影
- 2018年2月19日～3月2日には、ミュンスター大学
専門家による教職員のファシリテータ養成研修を広島
で開催し、3月にはカンボジアでセミナーを実施予定

学生能力向上の測定法

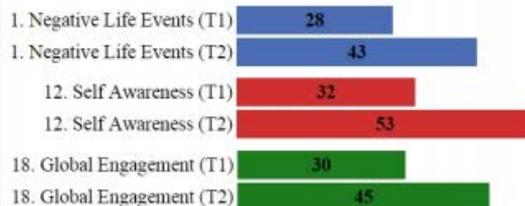
1. 客観的評価：BEVIテスト <http://www.thebevi.com/aboutbevi.php>

- 米国（ミシガン州立大）・カナダ（ブリティッシュ・コロンビア大）等60機関が利用
- JASSO・文科省と連携し、国際シンポジウム開催予定
- WEB上で実施。来日前，帰国後也可



りテストは、基本情報(40項目)及び質問(185項目)から構成され、質問部分は1ページあたり20項目あります。の選択肢(強くそう思う、そう思う、そうは思わない、全くそうは思わない)から、あなたの気持ちを最もよく表現して回答してください。1ページ20項目の質問に対する回答が終了した後、「Next」ボタンをクリックして先へ進んでく

↓評価結果例(個人の成長)



↓評価結果例(グループの傾向)

Item	4%	17%	22%	13%	9%	9%	9%	4%	0%	13%
7. Basic Determinism	4%	17%	22%	13%	9%	9%	9%	4%	0%	13%
8. Socioemotional Convergence	0%	0%	17%	4%	9%	17%	0%	9%	26%	17%
9. Physical Resonance	0%	0%	13%	4%	30%	0%	39%	13%	0%	0%
10. Emotional Attunement	4%	4%	13%	13%	26%	9%	4%	13%	13%	0%
11. Self Awareness	0%	0%	0%	13%	9%	13%	9%	4%	30%	22%
12. Meaning Quest	0%	4%	17%	4%	0%	17%	4%	30%	0%	22%
13. Religious Traditionalism	0%	0%	4%	4%	0%	9%	17%	17%	30%	30%
14. Gender Traditionalism	13%	4%	13%	4%	13%	30%	0%	9%	0%	13%
15. Sociocultural Openness	0%	0%	0%	4%	4%	0%	0%	9%	26%	57%
16. Ecological Resonance	0%	4%	9%	0%	9%	13%	17%	0%	17%	22%
17. Global Resonance	0%	0%	4%	4%	0%	9%	17%	13%	39%	13%
Deciles:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

2. 自己開発型評価：グローバルコンピテンシー

● AIMS事業で実績 評価

● 8つの指標に拡大：

- ① 国際コミュニケーション
- ② 成果志向
- ③ 協調性
- ④ 異文化理解
- ⑤ 自己理解
- ⑥ リーダーシップ
- ⑦ 基礎研究力 + ⑧ 社会起業力

Global Competencies Aimed for under AIMS-HU (2014-2015) Program (Evaluation Sheet)

1. Evaluation of Seven Competencies Before, During & After Overseas Study (Pre-evaluation, Mid-evaluation & Post-evaluation)

Entry Date	Pre-evaluation			Mid-evaluation			Post-evaluation			Name
	Year	Month	Day	Year	Month	Day	Year	Month	Day	

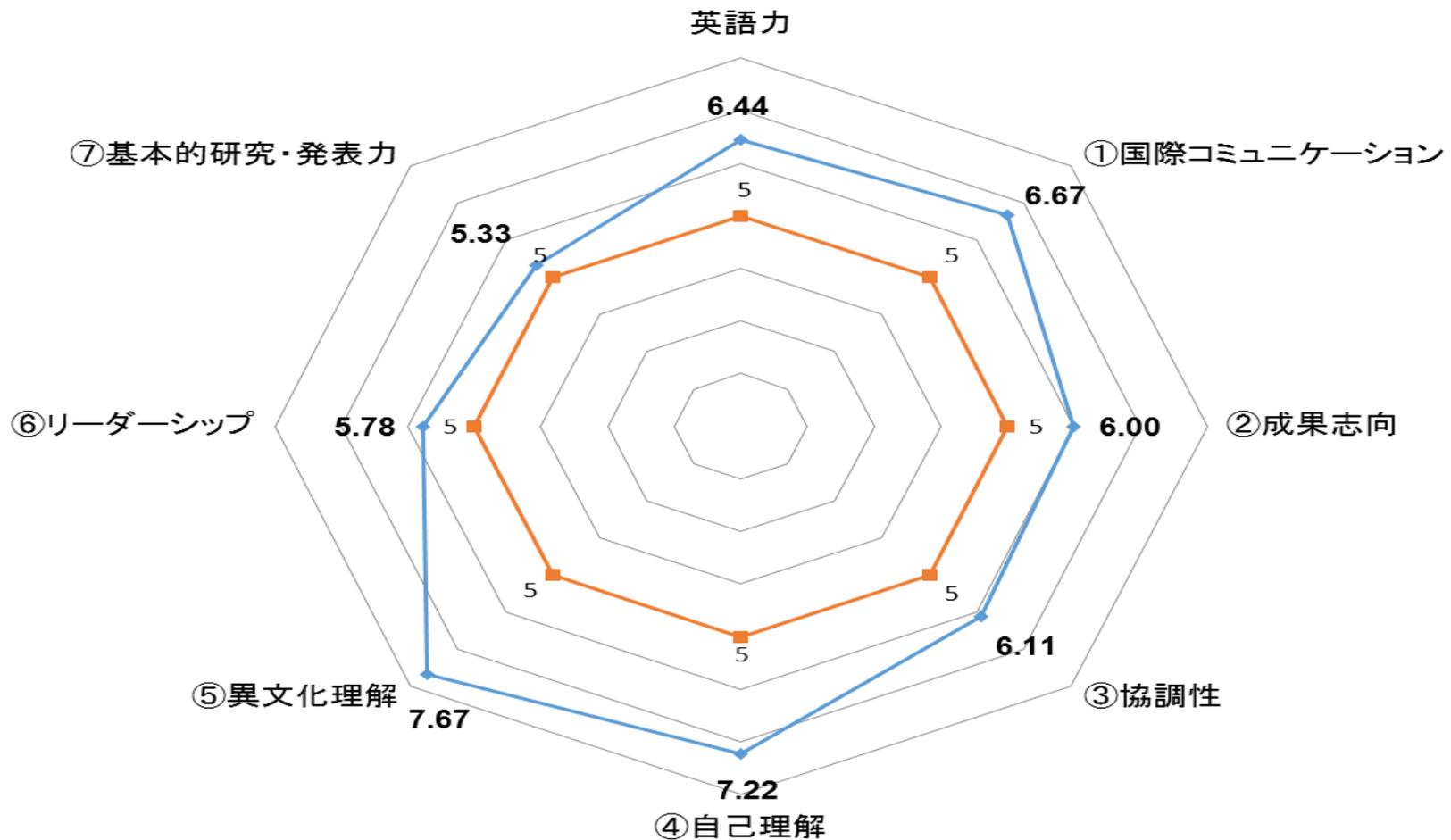
Level	① International Communication			② Results-oriented Action			③ Cooperativeness			④ Self-understanding			⑤ Cross-cultural Understanding			⑥ Leadership			⑦ Basic Research & Presentation Skills			
	Pre	Mid	Post	Pre	Mid	Post	Pre	Mid	Post	Pre	Mid	Post	Pre	Mid	Post	Pre	Mid	Post	Pre	Mid	Post	
5																						
4																						
3																						
2																						
1																						

* Refer to the following descriptions of achievement levels in writing the circles in the above table.

Level 5	Can display competency with almost no difficulties (90-100%), nearly achieving the target.
Level 4	Can display competency to a large degree despite some challenges to overcome (80-90%).
Level 3	Can display competency despite some points to improve and promote (70-80%).
Level 2	Has many challenges to overcome and can display only limited competency (approx. 50-70%).
Level 1	Displays little competency (less than 50%).

英語力とコンピテンシーの向上感（10段階自己評価の平均値*）

*H29年度派遣学生で1月までに帰国済学生 9名のデータに基づく



慶應義塾大学

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム（PAGLEP）の形成

日本人学生の育成状況について

表2 プログラム開始から現在までの派遣人数の実績

2017年3月 (ホーチミン・プノンペン)	2017年8月 (ラオス・タイ)	2018年3月 (ホーチミン・プノンペン)
12名	6名	6名 (予定)

応募状況

各年度ごとに2桁の学生を派遣することができている。

→

しかし・・・

1. 法科大学院のため、司法試験の準備を優先する学生が多い。
2. 長期休暇中（特に夏期）は、法律事務所等でのエクスターンと競合している。
3. 英語によるプログラムのため、学生からの応募は消極的である。

→

応募者が少なくなる傾向にある。

本来であれば、6ヶ月・1年の派遣を視野に入れ、派遣学生の選考を実施したいが、応募者全員を受け入れている状況である。

日本人学生の育成状況について

参加状況

受け入れ先大学との間で行うプレゼンテーションの事前準備に取り組んでいる。

→

エクスターン行程はすべて引率教職員に任せきっており、事前の情報収集も含めて、積極性に欠けている。

派遣後の状況

・メコン地域諸国との関連がある科目（開発法学や法整備支援フォーラムプログラムなど）の履修をしている。

→

単位にならないことはやらない傾向が依然として強い。

例：2017年8月に開催した留学生との夏期セミナーに参加した日本人エクスターン参加者はわずかであった。

・司法試験の準備を優先する傾向が強く、6ヶ月・1年の留学に対しては、非常に消極的である。

日本人学生の育成状況について

より良い人材育成に向けた取り組み（1）

応募段階

- ・メコン地域諸国からの留学生との交流を深める機会の提供
留学生向けの交流会に積極的に参加しているロースクール生を、留学生の学修支援を行うチューターとして採用し、日頃からメコン地域諸国に興味を持ってもらえるよう取り組みを始めた。
- ・司法試験の準備まで余裕があり、様々なバックグラウンドを持つ未修1年生に対しても応募資格を広げた。

→

2018年3月実施予定のエクスターンの応募数は、過去2回に行ったエクスターンと同数であったが、英語能力や積極性の面で優れた学生の応募があった。また、応募学生のうち3名は日頃からチューターとして業務に参加している。

日本人学生の育成状況について

より良い人材育成に向けた取り組み（2）

参加段階

・学生が主体的になれるよう、航空券の手配から学生が自ら行えるような事務
手続の構築が不可欠

→

現在、予算の執行上の理由から、航空券の手配からVISAの取得まで、旅行会社
の手配による決まったパッケージの中でプログラムを実施している。徐々に学
校側が手配する部分を小さくする必要がある。

*参考

2017年8月のエクスターンシップに参加した2名の学生(LL.M.生)は、ラオスでのエク
スターンの後、タイで合流するという形を採ったため、各自で旅券や宿泊先の手配をしたが、
特に問題はなかった。



こうした取り組みを通じて、司法試験の準備に目が向きがちの法科大学院
生の態度にも、徐々に変化が表れるのではないか。

明治大学

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造

日本人学生の育成状況について

- 取組部局3部局合同で平成29年（2017年）8月に実施した「CLMV学生会議」を開催した。「CLMV学生会議」では、明治大学の学生と海外交流大学の学生が、4グループに分かれ、「貧困」「交通」「観光」「市民参加」をテーマに討議を行った。討議の結果は政策提言としてまとめられ、グループごとに発表された。国、価値観、環境の違いを超えて、1つの意見としてまとめることができしており、参加学生の能力の高さに驚かされる結果となった。
- また、「CLMV学生会議」に参加した参加学生は、その後、ASEAN地域における都市問題などに興味・関心を持ち、同年11月に開催した「明治大学アカデミックフェス」において、「CLMV学生会議」での学びや成果についての報告会を実施している。
- 英語力の育成状況については、平成28年度（2016年度）実施の派遣プログラムの参加学生のうち、帰国後にTOEIC試験を受験した学生は、ほぼ全員のスコアが上昇している。なお、受験者のうち、100点以上スコアを伸ばした学生は50%に上り、中には300点以上向上した学生もいた。
- 本事業取組に参加した学生は、より長期の海外留学やさらなる国際体験に興味・関心を示しており、平成30年度（2018年度）以降の長期留学への派遣が決定している学生もいる。